

<平成 23 年度地域教育ネットワーク会議議事要旨(西白杵地区)>

- 1 日 時：平成 23 年 10 月 3 日 (月) 15:00~17:00
- 2 会 場：高千穂町中央公民館
- 3 参加者：各種関係団体等代表 19 名 事務局 4 名
- 4 内 容

(1) 開会行事

- ① あいさつ
- ② 日程説明

(2) 事業説明

- ① 平成 23 年度生涯学習関連主要施策について

(3) 協 議

- ① 自己紹介と日頃の活動について
- ② 子どもの 1 日の生活を支援するために、関係団体・企業等の相互連携はどうあればよいか。

(4) 閉会行事

5 協議のまとめ

参加者一人一人から、日頃行っている子どもの教育支援活動について、簡単に話していただき、他の団体の活動状況を知っていただきました。その後、活動上の問題点や課題、取組の成果や今後の教育支援の在り方についての協議を行い、以下のような御意見が出されました。

(1) 活動上の問題点や良い点等について

横のネットワークづくり

- ・他の活動団体を知らない
- ・話合いをすると活発化する
- ・子育ての情報交換にもなる
- ・地域の強いネットワークづくりができるとよい
- ・語る場を設定する必要がある

学校と地域を結ぶ

- ・地域同士のつながりが希薄である
(学校統廃合等が原因か)
(地域性が違うためか)
- ・西白杵地区は学校や子どものことを考えている地域である

縦のネットワークづくり

- ・年齢の差による価値観の違いがある
- ・成年層の動きが大切である
(子どもたちが良く理解できるように、言葉遣い、支援の工夫等)
- ・経験を伝えることが大切である
- ・地域の高齢者との結びつきを強める (学校で交流給食・懇談会の実施)
- ・田舎に子どもがいない状況を作ってしまったために縦のネットワークがうまくいかない

(2) 今後の具体的な取組等について

- ・体験活動を重視する
- ・地域の伝統芸能の継承を図る(子どもたちのやる気を高め、喜びを感じさせる)
- ・指導者が子どもたちのことをよく理解し、伝統芸能等を教えていく
- ・学校から地域へのアプローチの仕方を考慮する
- ・地域づくりにおいて、大人、子どもが同じ目標をもって取り組んでいく
- ・子どもたちに役割をもたせる(働きかけ)



(実践例1)

- ① エコスクール・・・子どもたちが環境について考える
米のブランド化・・・無農薬米を作るために子どもたちが田の草踏みをする
- ② 地域の祭りの復活・継承
地域づくりに子どもたちを参画させる
- ③ 地域のことに目を向けさせる
子どもたちが地域に残る、戻ってくるために
新しい価値観をもたせ、地域の良さを感じさせる
(中学生が他の団体とコラボしながら、修学旅行で五ヶ瀬町の良さを宣伝する)
- ④ 地域とのつながりを深める企業
(地域の魅力を子どもたちに伝える)



地域・学校・家庭ができることをしっかりとやっていく！